



別寒辺牛

2017年9月発行

NO.34

ベカンベウシ川の名前の由来は？

普段私たちが見ている別寒辺牛湿原は、約5,000～6,000年前に今の景観になったことが九州大学などの調査でわかっています。

その約6,000年より前の時代は、気候がもっと温暖であったため海水面がもっと高く、ベカンベウシ川中流域、カヌー駅出発点よりはるか上流まで海になっていました。

また同時に、道東海岸線の地面(地表)はプレート運動によって大きく上下動を繰り返しています。その結果、気候変動とあわせて約6,000年の間に湿原は大きく3回海になり、またプレートの短周期的な運動、約200～400年で数mの上下動が繰り返され、複雑な海進(海が内陸まで進むこと)、海退(その逆)を繰り返しています。

一番最近のもので、西暦1600年頃に東は糸魚沢周辺、北はカヌー駅出発点あたりまで海になっています。そして大正時代に地面が一番隆起し、厚岸湖の弁天島周辺が牡蠣島と共にそこそこの面積の土地があった時代となります。そして今、また地面の沈降期に入っています。悪いことに、地球温暖化が原因と思われる海水温の上昇により海水が膨張し、本来の地面の沈降にプラスして海水面がより上がってしまう時代に入っています。

前置きが長かったのですが、ベカンベウシという地名はアイヌ語で、ベカンベ(ペカンペ)=水草のヒシの実、ウシ=多いところ。合わせて“ヒシの実の多いところ”となります。ちょうど今の季節ですが、ヒシはデンプン質の多い、非常に固い刺がある実を付け、当時道東のアイヌの人たちの重要な食料となっていました。しかし近代になってベカンベウシ川に水草のヒシがあるという話も記載ありませんし、もちろん見たこともありませんでした。また厚岸のアイヌの部族が塘路湖にヒシの実の利権を奪いに行ったという言い伝えすらあります。

さて、2015年3月発行の水鳥観察館だより30号にヒシを発見！と記載してまして「しばらくは様子見」と書いています。カヌーに乗る人たちに聞いたところ、おおよそ6年前の2011年前後にヒシが入ってきたようだということがわかってきました。そして今、ベカンベウシ川支流のチライカリベツ川は水草のヒシで覆いつくされています！

水鳥などの野鳥由来で種がやって来たのか、カヌーなどの意図的でない運搬なのかは不明ですが、確実にヒシが大繁茂しています。その代わりに元々生息していた水草であるネムコウホネやヒツジグサは壊滅的な状態になっています。ただしこの状態も永遠と続くわけではありません。いずれ水位が上がり海水が流入し、淡水系の水草はその役目を一時的に終えます。数百年後の話ですが...

ところで、北海道の先住民であるアイヌ民族の文化は13世紀(西暦1200年代)に形成されるようになりました。ではその頃の海岸線はどこにあったのか？

西暦1400年あたりに今とほぼ同じ海岸線になっています。また西暦1600年頃には再び海になっていますので、西暦1200年代に住んでいたアイヌの人々はちょうどベカンベウシ川の河口域が陸地化、淡水化していき、そして再び海に戻る現象を民族の長い時間の中で経験しているのです。

淡水化して、おそらく始めに入ってくる代表的な花が咲く水草は、以前私たちが見ていたネムコウホネやヒツジグサであろうと推測できます。その後どこかの段階でヒシが進入しヒシに置き換わる。つまり“ベカンベウシ川”なのです。そしてまた海進し現在に至っていると考えれば、西暦1600年頃を境目にしてそれ以前の名前が残っていても何ら不思議ではありません。

そして現在、再び“ベカンベウシ川”に戻っている訳です。

これは、様々な研究者や知人の情報を繋ぎ合わせて導いた私の仮説でしかありませんが、海岸線は常に動いていること、それによって生き物の生息分布が変わることを考えながら過去や未来の環境を予測するのは楽しいですよ？



見渡す限りのヒシ

※裏ページはオオハクチョウ飛来日当てクイズです！



ラムサール条約登録湿地「厚岸湖・別寒辺牛湿原」
平成29年度版



オオハクチョウ飛来日当てクイズ

厚岸町の厚岸湖～別寒辺牛湿原には、毎年非常に多くのオオハクチョウがやってきます。12月初旬、渡りのピークには多い年で5,000～6,000羽以上が羽を休め、1～3月には1,000～3,000羽ほどが越冬する国内有数の越冬・中継地です。しかし、カキの産地として厚岸町の名はよく知られていますが、オオハクチョウなどの水鳥との結びつきは全国的にあまり知られていません。

厚岸町は、人為的な餌付けによってたくさん水鳥がやってきているわけではなく、自然環境が豊かであるために餌が豊富にあり、オオハクチョウなどの水鳥がやってくるのです。

つまり、オオハクチョウなどの水鳥は厚岸の自然の豊かさの象徴であり、そこで生産される海産物などは、それら自然の恵みをふんだんに受けた結果の産物です。

このオオハクチョウ、毎年10月になると第1陣がやってくるのですが、さて今年は何月何日に厚岸町にやって来るでしょうか？ 皆さんで予想してみてください。初飛来日を当てた方の中から、抽選でプレゼントをお贈りいたします。

●主催 厚岸町

●応募方法

この応募用紙にご記入の上、ファックスしていただくか封書で郵送してください。E-mail・ハガキでも受け付けております。

E-mail・ハガキの方は、

○予想飛来日 ○住所 ○氏名 (ふりがな)

○電話番号 ○職業又は学校名

をご記入のうえ水鳥観察館までお送りください。

●応募期間

平成29年9月1日～平成29年9月30日まで
(当日消印有効)

●過去の初飛来日 (平成7年から)

H7 10/24	H8 10/11	H9 10/12	H10 10/17
H11 10/19	H12 10/19	H13 10/19	H14 10/16
H15 10/14	H16 9/25 全員から抽選	H17 10/9	
H18 10/13	H19 10/12	H20 10/12	H21 10/8
H22 10/13	H23 10/4	H24 10/9	H25 10/6
H26 10/11	H27 10/7	H28 9/29 全員から抽選	

●賞品

○ドンピシャ賞 (3名)

厚岸町の自然の恵み「殻付き牡蠣 (カキえもん)」セット

(正解者2名以下の場合)

○ニアピン賞

最も近い日を選んだ人の中から、ドンピシャ賞と合わせて3名になるまで抽選いたします。

(賞品はドンピシャ賞と同じ)

※注1: **お1人様1回のみのお応募といたします。**
(複数回答は無効)

※注2: 9月30日までに飛来した場合は、応募者全員の中から抽選を行いますので、
10月1日以降でお答えください!

※注3: 初飛来は、水鳥観察館の職員が観察館野外観察カメラで確認した日を飛来日とします。

【応募・お問い合わせ先】

〒088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ66番地

厚岸水鳥観察館

「オオハクチョウ飛来日当てクイズ」係

TEL&FAX: 0153-52-5988

E-mail: bekan@tiara.ocn.ne.jp



キリトリ線

平成29年厚岸湖・別寒辺牛湿原オオハクチョウ飛来日当てクイズ

10月1日以降で答えてね!

予想飛来日

月 日

住所 〒

TEL () -

ふりがな

氏名

男・女

職業又は学校名

